『マルセル・シュオッブ全集』の刊行に寄せて

皆川博子 *Minagawa Hiroko*

水晶の板に金の線条を刻んで綴った物語たち。

シュオッブについて語るのは、詩について語るのと同じように難しい。語句の一つ一つが放つ美しい矢の魅力は、その文章に射抜かれなければ、感受できない。

ひとまず、冒頭のように括る。

線条をたどりつつ、古代の希臘を、中世の欧羅巴を、あるいは黄金の仮面で顔を隠した王の哀しみの跡を、あるいは阿片の家を、さまようしあわせを、どのような〈今〉の言葉が伝え得るのだろう。

山尾悠子 *Yamao Yuko*

むかし澁澤龍彦と多田智満子を経由してシュオッブを識った。「眠れる都市」「大地炎上」の眠りと滅び、ほの暗い架空世界の有り様はその後ながく私の創作の指標となった。シュオッブの名を密かに識る者は幸いである。その名は書物の森のもっとも秘密めく径の最奥手、ポオやボルヘスやコルタサルや――の隆々たる奥津城が火影を伸ばすあたりの行き止まりにある。〈恐ろしい流星の到来〉がかつてこの地を聖別した。シュオッブ全集の名が刻まれた稀少な書物に出逢う読書家は幸いである。特別な作家の特別な本というものは確かにあるものだ。

Les Œuvres complètes de
Marcel Schwob

マルセル・シュオッブ全集

【全一巻】

大濱甫・多田智満子・宮下志朗・千葉文夫・
大野多加志・尾方邦雄●訳

この世界の
いたるところに
シュオッブの
信奉者たちがいて、
彼らは小さな
秘密結社を
組織している。
――ホルヘ・ルイス・ボルヘス

国書刊行会

●……近年きわめて高い再評価と大きな注目を受ける、
19世紀末フランスの天才作家マルセル・シュオッブ(1867-1905)。
ボルヘス、ボラーニョ、澁澤龍彦らに多大な影響を与えた
この夭折の小説家の作品を、一巻に集大成する初めての邦訳全集。

●……『架空の伝記』『黄金仮面の王』『モネルの書』『少年十字軍』などの
全小説はもちろんのこと、今回初めて紹介される評論やエッセーも
多数収録。全体の約四割が新訳。本邦初訳も多数。

●……巻末には、シュオッブの愛弟子ピエール・シャンピオンによる
詳細な解説「マルセル・シュオッブの生涯と作品」、年譜ほかを収載。

●……24頁の別冊栞付き。執筆=山尾悠子、西崎憲、宮下志朗、千葉文夫

【造本・体裁】
A5判・上製貼箱入り・背継表紙
920頁・栞24頁
初版にのみ特典として、シュオッブ蔵書票付き
装丁=柳川貴代

定価=本体15,000円+税
ISBN978-4-336-05909-3

2015年6月刊行

お取扱い書店

国書刊行会
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
電話:03-5970-7421　ファックス:03-5970-7427
http://www.kokusho.co.jp　e-mail:sales@kokusho.co.jp

澁澤龍彦 *Shibusawa Tatsuhiko*

驚くべく博識で、古代から近代にいたるあらゆる哲学、文学を渉猟しつくしたかに見えたマルセル・シュオッブは、象徴主義の世代のなかのもっともすぐれた短編作家であり、いわば考証的知識の幻想ともいうべきものを創り出した。つまり、彼の知識は彼の幻想の基礎なのであり、また逆に言えば、彼の幻想によって彼の知識はたえず鼓舞されているのである。文体といい構成といい、作中にさりげなく盛られた寓意や象徴の自然らしさといい、シュオッブの短編は絶妙である。その代表的な短編集『二重の心』の序文で、シュオッブは、自分の霊感の源泉には二つの極があり、それは恐怖と憐憫であると述べているから、彼を近代的な怪奇作家と呼んでもそれほど不都合はあるまい。

『二重の心』のほかに、シュオッブの代表作には、やはり短編集『黄金仮面の王』があり、この二つの色彩豊かな書物には、じつにさまざまな時代、さまざまな環境において展開される物語が数多く含まれている。有史以前の原始状態(『オジーグの死』)から中世の妖術信仰(『モフレーヌの魔宴』『木靴』)まで、古代エジプトの地下墓地(『ミイラ造りの女たち』)から封建時代の乞食社会(『仮面』)まで、さらには、いつの時代とも分からぬ人類絶滅の風景(『地上の劫火』『未来の恐怖』『眠れる都』)をも描いて、シュオッブの才筆は、今日のSFの領域にまで手を染めている。

収録内容

【小説】

I 二重の心
大濱・多田・大野訳

鏡像幻視の美的恐怖を描く「〇八一号列車」。船幽霊の幻影譚「三人の税関吏」。ドッペルゲンガー怪談「二重の男」。ほかに、「吸血鬼」「阿片の扉」「交霊術」「骸骨」「太った男」「琥珀売りの女」「放火魔」等、全34編を収録した第一短篇集。

II 黄金仮面の王
大濱・多田・宮下・千葉訳

黙示録的な終末幻想「大地炎上」。仏陀の伝説を自由に展開した物語「黄金仮面の王」。ほか、「ペスト」「贋顔団」「宦官」「話す機械」「塩密売人たち」「青い国」等、全22編。

III 擬曲（ミーム）
大濱訳

夢幻的な古代ギリシアの市民生活を刻む、散文詩的小品『擬曲』。「料理人」「木の燕」「彩色された無花果」「笛の六音」「タナグラ人形の日傘」ほか。

IV モネルの書
大濱訳

白い王国の住人である娼婦モネルとその姉妹たちの物語。《ニヒリズムの福音書》と評される『モネルの書』。「モネルの言葉」「倒錯的な娘」「夢想する娘」「願いを叶えられた娘」ほか。

V 少年十字軍
多田訳

子供ばかりの十字軍という中世の不思議な歴史的現象を詩的現象に変容させ、《小さな奇跡の書》と讃えられた『少年十字軍』。「托鉢僧の語り」「三人の児の語り」「法王グレゴリウス九世の語り」ほか。

VI 架空の伝記
大濱・千葉訳

実在した人物、あるいは実在したかもしれない人物の想像上の伝記を捏造し、現代の多くの作家たちにはかり知れない影響を与えつづける『架空の伝記』。「神に擬せられたエンペドクレス」「放火犯ヘロストラトス」「土占師スーフラー」「人殺しバーク、ヘアー両氏」ほか。補遺として「造化神モルフィエル伝」も収録。

VII 木の星
大濱訳

シュオッブ最後の創作作品となった、少年アランの探求と挫折の物語。

VIII 単行本未収録短篇
大野・尾方訳

サディストの殺人者を描く「金の留め針」。近年発見された遺作のレスビアン小説「マウア」。ほかに、「白い手の男」「閉ざされた家」「ユートピア対話」「栄光の手」「黒髪」「悪魔に取り憑かれた女」等11編。

【評論】

IX 拾穂抄
大濱・宮下・千葉訳

敬愛するスティーヴンソンを論じて、現実とフィクションの逆転構造を解明する「ロバート・ルイス・スティーヴンソン」。精緻な長篇評論「フランソワ・ヴィヨン」。他に、「ジョージ・メレディス」「歓待の聖ジュリアン」「倒錯」「笑い」「愛」「藝術」「混沌」等。ボルヘスの『続審問』へと通じる、驚嘆すべき博識が横溢する文芸評論集。

X 記憶の書
大野訳

アラジン、アリババ、ロビンソン、青髭……少年期の読書の記憶を美しく回想した、最晩年の珠玉エッセー。

XI 単行本未収録評論
大野訳

「スティーヴンソンの『爆弾魔』」「ラシルドの『不条理の悪魔』」「ジョン・フォードの『アナベラとジョヴァンニ』講演」「モル・フランダーズ」「シェイクスピアの『ハムレット』序文」の5編を収録。

【解説】 ピエール・シャンピオン

【解題】 瀬高道助

【年譜】 大野多加志